



JUST THE WAY I AM!

西おまちのユニークな人を紹介

村松佐友紀さん 小島有加さん

泊まれる純喫茶 ヒトヤ堂

人宿町にオープンしたゲストハウス「泊まれる純喫茶ヒトヤ堂」は、老舗の喫茶店をリノベーションして誕生した。玄関先はまず喫茶店があり、その奥がゲストハウスのロビー部分となっている。老舗らしい壁や柱の色、ガラス戸などのレトロな風情が感じられる。さすがに年季の入った趣のある空間だなどと感じていたら、若き経営者の村松さんとパートナー小島さんはこう言ったのだ。「いや、それ全部自分たちで作ったんです」と。ん？

その昭和レトロ的な内装は、実は彼女たちが自ら手を入れて作り上げたということなのだ。さすが美大出身の二人である（しかもその費用の一部はクラウドファンディングで調達したということ。さすがは今の若者である）。その空間はまるで前からそうであったように自然体で無理がない。これは二人に共通するイメージにも通じているように感じる。ゲストハウスとは掃除洗濯ベッドメイキングとけっこう体力勝負のように感じるが、彼女たちから「体力」とかいうイメージは出てこない。もともと秘めたガッツがあるのだから、見た目はやっぱり文系でマイペースやまったりというのが似合うのだ。(笑)

六月に開業したので半年ほど経ったことになる。ハイシーズンにいきなり開業したことで、慌ただしい日々だったというが、彼女たちに不思議と疲労感はない。それは出来ること出来ないことを決めることによつて負担を極力減らしていくという日々の中で意識していったからだという。最初というのは何でも意気込んで片っ端から手を付けて疲弊してしまうもの。慣

れないうちは彼女たちもそうだったらしいが、最近では仕事のルーティンが整理できて空き時間が少しずつ増えているらしい。小島さんはそんな時間を使って静岡市内の観光地に足を運んでいるらしい。東京生まれで静岡との縁は何もなかったが、ヒトヤ堂運営を機にこの地に越してきた彼女は、静岡は観光地としての魅力も感じているということだ。登呂遺跡に安倍川餅、しぞーかおでんなど。と同時に静岡への物足りなさも口にする頼もしい一面もあるが、それもすでに静岡愛の表れのように思う。

村松さんは以前からゲストハウスに興味を持ち、開業前は他でヘルパーをして経験を積んできた。そしていよいよヒトヤ堂の開業に至ったわけだ。「人と人を繋げる、静岡の新たな拠点を作りたい」との彼女の想いは、半年して確実に成果を上げていくようだ。街中の人宿町にあるためにあらゆる人が立ち寄る。近所のおじさんおばさん、バックパッカー、旅行者、外国人、サラリーマン、アーティストや若者というように、ここはひとつの属性にしばられない客が集う珍しいゲストハウスだ。また喫茶店がその繋がりが生む装飾的な役割となっている。多様な人々が集い交流が生まれるこの場所には、何か新しく面白いことが生まれてくる期待感が大きいにある。

ヒトヤ堂は寝泊まりする施設ということをややかに超えて、人と人を繋げる静岡の新しい拠点としてどんどん成長していきそうだ。もともともどんなに忙しくなっているもきつと二人は涼しい顔をしてマイペースで人々を迎え入れては、そして彼女たち自身が、静岡の新しい観光地（つまり旅の目的）となるのもそう遠くないように感じる。

パラレルキャリア派宣言!

演出家

一般社団法人 アート支援機構 代表理事

渡辺亮史さん



演出家であり、経営者でもある。

このふたつの職業を両立させるのは想像以上に困難なはず。芸術／アートはお金にならないという通説であり、日本ではいわば常識である。つまりまともな経営者であれば芸術には手を出さないというところ。現在、この両立に果敢に挑戦しているのが演出家として「劇団渡辺」を主宰し、かつ劇場「人宿町やどり座」の経営者でもある渡辺亮史さんだ。

このふたつの職業を両立させるのは想像以上に困難なはず。芸術／アートはお金にならないという通説であり、日本ではいわば常識である。つまりまともな経営者であれば芸術には手を出さないというところ。現在、この両立に果敢に挑戦しているのが演出家として「劇団渡辺」を主宰し、かつ劇場「人宿町やどり座」の経営者でもある渡辺亮史さんだ。

このふたつの職業を両立させるのは想像以上に困難なはず。芸術／アートはお金にならないという通説であり、日本ではいわば常識である。つまりまともな経営者であれば芸術には手を出さないというところ。現在、この両立に果敢に挑戦しているのが演出家として「劇団渡辺」を主宰し、かつ劇場「人宿町やどり座」の経営者でもある渡辺亮史さんだ。

場「アトリエみるめ」を管理するこの団体の長となつたことが経営者の始まりだ。折しも東日本大震災直後で厳しい船出となったようだが、多くの観客や舞台関係者が集う静岡演劇界での重要な拠点となつていった。その後七間町に場所を移し「このみるめ劇場」として再スタート。だがこれらの二拠点とも社会情勢に翻弄されながら結果的に厳しい経営判断を下すことになった。

まずは取っ付きにくい演劇をアピールするのでなく、祭りの賑やかさにしようというスタッフの意見を取り入れた。演出家の矜持からすれば強度ある作品を上演したいはずだが、経営者としての判断を優先したのだ。結果こけら落とし公演は大盛況となり華やかな劇場の船出となった。多くの舞台関係者が登場した公演は好評を博し（もちろん渡辺さんが演出を担当した）、結果的には芸術的にも経営的にも（無料公演だったにも関わらず！）成功した。

ダンサー 池谷ゆかりの ニューヨーク便り

12月ニューヨーク、いつも以上に街はキラキラ輝いていて、一年の中でも一番ニューヨークらしい「The NEW YORK」を感じられる季節になりました。生のツリーが路上で売られていたり、ロックフェラーセンターの大きなクリスマスツリーも点灯されました。またその近くにあるラジオシティミュージックホールでは毎年期間限定ホリデーシーズンに開催する公演「クリスマス スペクタキュラー」が上演中です。ニューヨークのクリスマスが味わえるまさにエンターテインメントの集大成。子供から大人まで楽しめて、ドキドキワクワクするような幸せな気持ちになれるお勧めの舞台です。 さて 11 月はヴィシーダンスシアタースペシャルワークショップを開催しました。2007 年から企画し始めた SHIZUOKA x NEW YORK ダ

ンスを通して国際交流、日本ツアー公演、ワークショップを開催してきて、少しずつですがようやく形になってきました。静岡には芸術が根付いている地域の土台があり、更に発展し可能性を広げていくには、ニューヨークからのエンターテインメントを静岡にいなながら体験できる、本物に触れる環境を作ることが大事だと感じています。ダンスは世界共通語。そのダンスが持つ力は、言葉、文化、人種、国境を”超えて”“その先にある未来を輝かせてくれます。無限の可能性を秘めた人と人を繋ぐ、静岡と世界のニューヨークが繋がる空間を、芸術の橋をこれからも架けていけたらと思います。次回乞うご期待!

Yukari Ikegaya

Review 演劇ユニットひ・ま・た・く『かごの鳥』

TEXT: 牧野としこ (ラジオパーソナリティ)



それは摩訶不思議な経験でした。演劇ユニットひ・ま・た・くの女優二人芝居「かごの鳥」の観劇です。 彼女の説明もなくはじまった舞台には、和装の娘が二人。彼女達は部屋に閉じこめられていて、どうやら正体不明の「おじさん」に拉致され監禁されているらしい。 大正?昭和なのか? お兄さまとか、近代文学的な耽美的台詞のやり取りから推察するもはつきりとは語られず: でも!この二人、よく喋るぞ!! 身振り手振りを交えつつ、お兄さまとの思い出や、こころから救い出してくれることを期待するやりとりがマシガントークで進んでいくものの、そんな彼女達を呆然と眺める私の頭は「??」だらけ。(笑) 意味が全然わからない!!! それなのに二人の熱演から目が離せない!

意味不明なのに目入ってしまふこの魅力はなんだろう?そうか!これが目の前で観劇することの醍醐味なんだ! 演劇ファンなら当たり前の魅力を教えて頂きました。でもそれは、役者がこの膨大な台詞を暗記し、しっかりと自分のものにしていくからこそ。 数回ある暗転時に男性の語りが少し流れるものの、後はほとんど女優二人が出ずっぱりで流れるで機関鏡のように連射される台詞の掛け合いが終幕までリズムミカルに続き、終始圧倒された感がありました。 そして、一冊の書物を読み出しました。 それは、ナチスドイツのアウシュビッツ強制収容所での体験を精神科医が綴った名著、ヴィクトール・フランクルの「夜と霧」です。 この舞台の二人は、わけわからず監禁されているはずなのに終始楽天的で、どこかトボケた明るさで、舞台はにぎやかな喧嘩に満ちていました。 この絶望的な現実を空想力で乗り越えようとする二人の姿は、強制収容所という絶望的な状況を生き延びたフランクルのユーモアと空想力に通ずる部分があると感じました。 空想力さえあれば、過去でも未来でも、文学や芸術作品の中へでも、いや!世界や宇宙や既に亡くなった人のもとにさえいつでも飛んで行くことができる! ああ、空想って素晴らしい。(笑)

【観劇データ】 演劇ユニット HORIZON 第 11 回公演 ナツヤスミ語辞典 夕涼みキャスト 日時: 2018 年 9 月 22 日 (土) 19:00 場所: MIRAIE リアンコミュニティホール七間町

【筆者プロフィール】 牧野としこ



クラシック映画をこよなく愛するラジオパーソナリティ。パイプはゴッドファーザー。生まれ変わるなら猫になりたい。できればお庭付きの一軒家希望。夢は七間町ブロードウェイ化計画!!

ストライクが出たら「うまい棒」プレゼント! キャンペーン実施中!

PLAZA 静活プラザポウル 伊勢丹さんの向かい、セガワールドの上 静活駐車場利用で 2 時間無料! TEL: 054-253-7181 静岡市葵区七間町 4 番地

発行元 【このかわら版へのお問い合わせ、情報提供、広告出稿はこちらまで】 静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター 〒420-0035 静岡市葵区七間町 15 番地の 1 TEL 054-205-4750 FAX 054-260-4550 info@c-c-c.or.jp http://www.c-c-c.or.jp

次号発行予定日 2月17日(日) 【企画編集】 株式会社オフィス・スノド アートマネジメント事業部 静岡市葵区七間町 7-8 コテラス七間町 TEL:054-260-6173 / info@officesnodo.net